

目 次

- 1 はじめに
- 2 教室現況
 - (1) 教室員
 - (2) 人事異動
 - (3) 業務分担
- 3 スケジュール表
 - (1) 医学部生の病棟臨床実習
 - (2) 血液内科診療の医師勤務表
 - (3) 5階西病棟の当直医表 (3月)
 - (4) 臨床実習授業評価
- 4 主な活動内容
 - (1) 学会および研究会 (国内、海外)
 - (2) 学術論文 (原著：和文、英文、症例報告：和文、英文)
 - (3) 著書 (単行本、シリーズものなど)
 - (4) その他 (研究成果報告集、寄稿文など)
 - (5) 研究費・助成金・寄付金など
 - (6) 支援研究会など
- 5 診療実績 (入院・外来患者数、疾患別分類、死亡、剖検など)
- 6 リーダーレポート (准教授、講師、助教、輸血部主任、看護師長など)
- 7 寄稿文

1 はじめに

本邦の COVID-19 罹患者数はすでに人口の 3 割を超えた。今後 COVID-19 は小さな感染の波を繰り返しながらも、収束に向かっていくのではないかと期待している。コロナ禍・ロシアのウクライナ侵攻のさなか、サッカーワールドカップやワールドベースボールクラシックにおける日本代表の活躍は明るい話題だった。

本年度は天野雄登君、太根美聡さんが入局してくれた。国立がんセンターで修練した堀善和君が 4 月に助教として復帰した。西川彰則病院教授は 2023 年 1 月に医療情報部部長に就任した。村田祥吾講師は昨年度に引き続き医局長、病棟長を兼務している。蒸野寿紀講師は地域医療支援センターの副センター長を兼任している。細井裕樹講師は CAR-T 施設認定に尽力している。山下友佑助教は大学院時代からの研究をまとめてくれている。時々、医大や地域の基幹病院での医局員の活躍が耳にはいつてくるが、非常にうれしい。

診療においては、キムリアの施設認定を取得できるところまできた。病院幹部・事務方の理解、及び、供給元・輸血部の協力が必須であった。ご尽力頂いた皆様方に感謝している。供給元によるとしばらく施設認定は凍結されるとのことで、当科の認定は何とか間に合った感じである。また、やがて医師の働き方改革が本格化する。多様な働き方・生き方を尊重し、業務を効率化することが大切である。一方、たゆまぬ自己研鑽・研究・教育は働き方改革と相反するものではないと思っている。

研究においては、新しい診療につながる治験に積極的に参加していきたい。治験には臨床研究センターの協力が重要であることを再認識した。吉田菊晃君は癌研有明で、田中顕君は久留米大学大島研で勉強している。また、若手が学内の研究室との共同研究をすすめており成果が楽しみである。

教育においては、学部学生への講義・実習が少しずつコロナ禍以前に戻ってきている。今年度は初期研修医が 7 人ローテートした。内科専攻医の専門医取得も順調である。海南医療センターの弘井孝幸君が英語論文をまとめ博士号を取得した。大学院生の小浴秀樹君は英文論文を発表し 2023 年 4 月には討議会を控えている。大学院の田畑翔太郎君は山下友佑助教とともに本学井原研と共同研究をすすめている。

長く医局を支えてくれた矢田尚子さんが令和 4 年 10 月末で、輸血部の松浪美佐子主任が令和 5 年 3 月末で、御退職された。お世話になりました。本年度もたくさんの重症患者さんを診療した。野口理恵師長をはじめ 5 西・血内外来スタッフの皆様、有難うございます。HCTC の上田かやさんには当科の移植成績をまとめていただいた。医局の運営には土谷波花さんと花井宏実さんにお世話になっている。あらためて感謝申し上げます。

令和 5 年 3 月
園木孝志

2 教室現況

(1) 教室員

医局	教授	園木 孝志	
	講師	村田 祥吾	
	講師(地域医療支援センター)	蒸野 寿紀	
	講師	細井 裕樹	
	助教	山下 友佑	
	助教	堀 善和	
	学内助教・大学院生	小浴 秀樹	
	学内助教・大学院生	田畑 翔太郎	
	学内助教	岡部 友香	
	学内助教	武田 里美	
	学内助教	岡村 雅	(2023年3月31日まで)
	学内助教	天野 雄登	(2022年6月30日まで)
	学内助教	太根 美聡	
	大学院生(久留米大学へ国内留学)	田中 顕	
	事業担当補助員	花井 宏実	
	事務補助員	矢田 尚子	(2022年10月31日まで)
	事務補助員	土谷 波花	(2022年9月9日から)
輸血部	准教授	西川 彰則	
	主任	松浪 美佐子	(2023年3月31日まで)
	主査	堀端 容子	
	主査	中島 志保	
	副主査	富坂 竜矢	
	医療技師	鈴木 誠也	(2022年4月30日まで)
		山本 裕也	(2022年5月1日から)
	移植コーディネーター	上田 かやこ	
	研修医	井邊 公章	(2022年4月～6月)
		木村 朔	(2022年4月～6月)
		曾我部 槇子	(2022年4月～6月)
		南 昌吾	(2022年4月～6月)
		森本 雄也	(2022年7月～8月)
	熊野 真理恵	(2023年2月～3月)	
	松本 藍	(2023年3月)	

(2) 人事異動

採用

助教	堀 善和	(2022.4月1日～)
学内助教	岡部 友香	(2022.4月1日～)
学内助教	天野 雄登	(2022.4月1日～)
学内助教	太根 美聡	(2022.4月1日～)

配置換え・退職

学内助教	天野 雄登	(～2022.6月30日)	橋本市民病院へ
学内助教	岡村 雅	(～2023.3月31日)	紀南病院へ
学内助教	松山 依子	(～2023.3月31日)	橋本市民病院へ

(3) 業務分担

令和4年度 業務分担

2022年4月～

<p>1. 科長・教育主任：園木 (副科長：村田)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義，試験の管理，学生オーガナイザー（4年生）、卒業試験（6年生）、依頼問題作成 ・病棟実習（必修や選択実習、症例選択）の支援（病棟医長と協力） ・臨床実習ディレクター ・生涯研修センター長（平成28年4月～） ・更正医療担当 ・和歌山県原爆被爆健康管理手当て等認定医 ・和歌山県身体障害者福祉専門分科会審査部会委員 ・和歌山県エイズ対策推進協議会委員
<p>2. 医局長：村田 (副医局長：細井)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・秘書支援（採用と更新と検診、薬説明会、年報、home page、研究費申請） ・研究会（主宰の講演会、学会） ・行事（入局案内、歓送迎会、花見、暑気払、忘年会、医局旅行） ・会議の主導（医局会議） ・研究打合せ、学会予行、研究費やIRB申請の支援
<p>3. 病棟医長：村田 (副病棟医長：細井)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病床運営（入・退院、主治医指名、他科交渉） ・管理（回診、学生実習、当直医・日誌、レセプト、臨床試験、剖検） ・検討会（死因検討会） ・危機管理（医療ミス、事件、感染対策、緊急連絡、災害訓練、投書対応） ・リスクマネージャー ・保険請求担当（DPC、入院） ・保険請求担当者会議 ・移植調整医師 ・症例検討会（CCポイントコメント） ・抄読会
<p>4. 外来医長：細井 (副外来医長：山下)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・診療担当医表、レセプト、外来診療用コンピューターの管理 ・外来の危機管理（苦情、事故、外来診療相談・クラーク指導責任医師など） ・移植調整医師 ・保険請求担当（外来） ・感染対策マネージャー ・オーダーリングシステム入力責任者（主） ・予約メンテナンス管理責任者（主）
<p>5. 研究主任：山下</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究室運営（機器や試薬管理など基盤整備と配分、安全指導など） ・試薬管理責任者
<p>6. その他</p> <p>1) 園木</p>	<p>病院委員会</p> <p>医療安全推進部（重大事故調査委員会） 感染制御部（感染制御部運営委員会・感染予防対策員会） 薬剤部（薬剤部運営委員会・薬事委員会・医薬品安全管理委員会） 輸血部（輸血療法委員会） リハビリテーション部（リハビリテーション部運営委員会） 医事課（エイズ診療対策委員会・脳死臓器移植対策委員会） 経理課（科長会、腫瘍センター運営、腫瘍センター放射線治療、中央手術部運営、放射線安全、病院機能評価認定更新対策）</p> <p>医学部委員会</p> <p>研究推進課（研究活動活性化委員会、遺伝子組換え実験安全委員会委員、遺伝子解析研究に関する倫理審査） 地域医療支援センター（内科専門研修プログラム研修委員会） 臨床研究センター（治験審査委員会委員長）</p>
<p>2) 西川 (医療情報部部長)</p>	<p>病院委員会</p> <p>経理課（医療情報部運営委員会） ・和歌山県骨髄移植対策協議会委員 ・移植調整医師・委嘱連絡医師 ・和歌山県献血推進協議会 ・和歌山県合同輸血療法委員 ・がん診療拠点病院（相談支援センター業務）担当医 総務課（人権・同和対策推進協議会）</p>
<p>3) 村田</p>	<p>総務課（人権・同和対策推進協議会）</p>
<p>4) 細井 (輸血部次長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各科代表者薬事委員 <p>病院委員会</p> <p>薬剤部（レジメン審査委員会（副）） 輸血部（輸血療法委員会）</p>
<p>5) 蒸野 (地域医療支援センター/副センター長) (卒後臨床研修センター/副センター長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・移植調整医師 卒後臨床研修センター（内科専門研修プログラム研修委員会・代表指導医） 薬剤部（レジメン審査委員会） 経理課（腫瘍センター薬物療法委員会・がんゲノム医療委員会） 病理合同カンファレンス
<p>6) 山下</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職場研修委員 研究推進課（共同利用施設管理運営委員会） 経理課（クリティカルパス）

3 スケジュール表

(1) 医学部生の病棟臨床実習

(2) 血液内科診療の医師勤務表

(3) 5階西病棟の当直医表 (3月)

※ (1) - (3) は次ページ以降に収録。

(4) 医局行事

1) 週間

月曜日 医局会 (入・退院、連絡事項)、チャートカンファレンス)

火曜日 病棟回診

水曜日 研究打合せ

木曜日 カンファレンス (MGH, CC)

金曜日 HIV カンファレンス (隔週外来)

2) 月間

病理合同カンファレンス

移植カンファレンス

症例検討会

診療会議

3) 年間

科研費申請 (9月)、年報作成 (3月)、人事 (随時)

(1) 医学部生の病棟臨床実習

血液内科																		
集合場所：研究棟 10階 血液内科医局（内線 5453）																		
総括の後、レポートを訂正し、血液内科医局の秘書机に一部提出すること。 (訂正したレポートを提出しない場合、実習を履修しなかったと判断する。)																		
☆コピーは病棟で行わず医局で行うこと☆																		
日付	8		9		10:30		12:30		13		14		15		16		17～	
/ (/) 月			第1週目 (他科)						第1週目 (他科)						第2週目 チャート カンファ レンス			
			9:00- レポート進捗 状況報告		症例学習						第2週目 ※症例学習							
/ (/) 火			第1週目 (他科)						第1週目 (他科)						第2週目 入院患者廻診 (園木教授)		第2週目 外来 (園木教授)	
									症例学習		第2週目 14:00-15:00 造血幹細胞移植 (村田講師) 5西CR		症例学習					
/ (/) 水			第1週目 (他科)						第1週目 オリエン テーション (園木教授)		症例学習							
					症例学習						第2週目 14:00-15:00 輸血部実習 (松浪主任)		第2週目 15:00-16:00 骨髄生検 シミュレーション (蒸野講師・田畑先生) 5西CR					
/ (/) 木	第2週目 8:00- 8:30 カンファス (CC/ MGH)		外来・内科診察 (園木教授)						第1週目 症例学習※									
									第2週目 14:00-15:00 血球形態を学ぶ (西川病院教授) 5西CR		第2週目 15:00- HIV感染症を 把える (園木教授) 5西CR							
/ (/) 金									第1週目 症例学習※									
					症例学習						第2週目 ※症例学習		第2週目 16:00- レポート発表会/ レポート提出 (園木教授)5西CR					

※随時、疾患について討論を行う(園木)

教官から指摘を受けた個
所を訂正し、必ず本日に
提出すること

(2) 血液内科診療の医師勤務表

2022年4月～

	月	火	水	木	金
外来診察1	村田	園木(新患)	田村	園木(新患)	園木
診察2	山下	西川	蒸野	村田	西川
診察3	松山(蒸野)		堀	西川	小泉
診察4	松山/蒸野 (新患)	小浴	村田(新患)	細井(新患)	栩野(新患)
処置係	岡部	岡村	太根	岡村	太根
他病棟当日診察 依頼	岡村(岡部)	太根(堀)	田畑(太根)	岡部(岡村)	堀(田畑)
予約外当日外来 新患	松山/蒸野	栩野(山下)	村田	細井	山下
フォローアップ 外来	松山/蒸野	山下	村田	細井	栩野
マルク診断	山下	蒸野	細井	村田	栩野(堀)
医局行事	医局会 (15:00-)	病棟回診 (8:30-)		MGM (学生実習 2 週目) (8:00-)	
	病理カンファレンス (第1週) (16:30-)	抄読会(第2週) (18:00-)		症例検討会 (17:00~)	
				(研修医のいる月の 第1or第3)	
				リサーチカンファ (第2週)(17:30-)	
				移植カンファレンス (第4 17:00~)	
				診療会議(第4週) (17:30-)	
				学会予行 (随時 17:00~)	

(3) 5階西病棟の当直医表

2023年3月

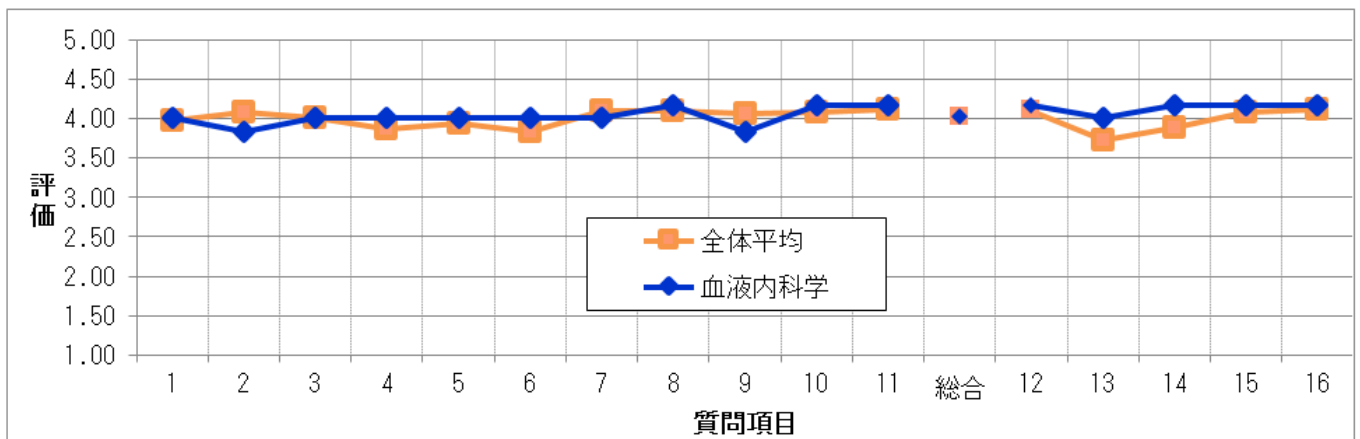
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
			3月1日 岡村	3月2日 田畑	3月3日 山下	3月4日 太根
3月5日 堀	3月6日 岡村	3月7日 岡部	3月8日 栗山(細井)	3月9日 太根	3月10日 村田	3月11日 小浴
3月12日 岡村	3月13日 蒸野	3月14日 細井	3月15日 太根	3月16日 山下	3月17日 田畑	3月18日 岡部
3月19日 蒸野	3月20日 岡村	3月21日 細井	3月22日 太根	3月23日 岡部	3月24日 小浴	3月25日 村田
3月26日 田畑	3月27日 奥田(蒸野)	3月28日 堀	3月29日 岡部	3月30日 小浴	3月31日 山下	

(4) 令和4年度 臨床実習 授業評価

(回答者数) 6人

質問項目	A									B		総合	C				D
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		12	13	14	15	
血液内科学	4.00	3.83	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.17	3.83	4.17	4.17	4.02	4.17	4.00	4.17	4.17	4.17
全体平均	3.97	4.08	4.01	3.88	3.93	3.83	4.10	4.09	4.05	4.08	4.12	4.01	4.10	3.73	3.89	4.08	4.11

総合	質問項目 1~11 の平均
	質問項目 1~11 の内、最大値
	質問項目 1~11 の内、最小値



【質問内容】

A 指導医について (まったく思わない①……②……③……④……⑤とても思う)

- 1 指導医と討論する時間が充分にあった。
- 2 親切に接してくれた。
- 3 問題点を見つけるよう適切に指導してくれた。
- 4 時間を厳守するよう適切に指導してくれた。
- 5 実習中の最終目標を明確に示してくれた。
- 6 毎日の目標を示してくれた。
- 7 医学的知識について適切に指導してくれた。
- 8 医学的スキルについて適切に指導してくれた。
- 9 知識・スキルについて誤りがあった場合、注意や指導をしてくれた。

B セミナーについて (行われなかった場合は記入不要)

- 10 よく準備された教材を使用してくれた。
- 11 病態との関連について適切に説明してくれた。

C 自己評価

- 12 知識が増えた。
- 13 基本的スキルができるようになった。
- 14 診断・治療の選択が可能になった。
- 15 症例の提示(発表)ができるようになった。

D 臨床実習の総合的評価 (悪い①……②……③……④……⑤良い)

- 16 臨床実習を総合的に評価してください。

4 主な活動内容

(1) 学会および研究会

1) 国際学会

Akinao Okamoto, Masashi Sanada, Takahiko Yasuda, Seiichi Kato, Akira Sato, Kosei Matsue, Hiroki Hosoi, Masahiro Yoshida, Satsuki Murakami, Eisei Kondo, Yasufumi Masaki, Yasuhiro Suzuki, Kana Miyazaki, Tomohiro Kajiguchi, Junji Hiraga, Shingo Kurahashi, Yuichiro Inagaki, Kazutaka Ozeki, Shigeki Saito, Terao Toshiki, Iba Sachiko, Keiko Hattori, Hideyuki Yamamoto, Naoe Goto, Chisako Iriyama, Okamoto Masataka, Akihiro Tomita: 「Prospective Study on the Usefulness of Liquid Biopsy in Patients with Unknown Fever Suspected of Malignant Lymphoma」 64th ASH 2022.12.10-13

2) 全国学会

太根美聡、細井裕樹、小浴秀樹、堀善和、山下友佑、蒸野寿紀、村田祥吾、西川彰則、園木孝志：「当院で原疾患再発に対して2度目の同種移植を行った症例での初回と2回目の移植経過の比較検討」第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2023.2.10-12 名古屋

Tadashi Okamura, Hiroki Hosoi, Junya Fukai, Takayuki Hiroi, Yusuke Yamashita, Toshiki Mushin, Shogo Murata, Naoyuki Nakao, Takashi Sonoki: 「Comparison of PCNSL patients treated in neurosurgery and hematology departments」第84回日本血液学会総会 2022.10.14-16 福岡

Ayaka Sakaki, Hiroki Hosoi, Hideki Kosako, Yoshiaki Furuya, Takayuki Hiroi, Shogo Murata, Toshiki Mushino, Takashi Sonoki: 「Combination therapy with rituximab, plasma exchange, and romiplostim for severe TAFRO syndrome」第84回日本血液学会総会 2022.10.14-16 福岡

田畑翔太郎、山下友佑、武田里美、棚野祐一、富坂竜矢、中島志保、松浪美佐子、堀善和、村田祥吾、細井裕樹、蒸野寿紀、神波信次、西川彰則、園木孝志：「抗IgA抗体を保有する急性骨髄性白血病に対して、同種末梢血幹細胞移植を行い、良好な経過を辿った一例」、第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2023.2.10-12 名古屋

田畑翔太郎、村田祥吾、武田里美、細井裕樹、蒸野寿紀、西川彰則、田村志宣、園木孝志：「HLA hetero to homo BMTにて良好な経過をとった劇症型再生不良性貧血の一例」、第44回日本造血・免疫細胞療法学会総会(ハイブリッド開催) 2022.5.12-14 横浜

Hideki Kosako, Yusuke Yamashita, Shuhei Morita, Takashi Sonoki, Shinobu Tamura. “Allosteric ABL inhibitors induce apoptosis in myeloma cells through ABL-mediated IRE1 α signaling” 第84回日本血液学会学術集会 2022.10.14 福岡

Yusuke Yamashita, Hideki Kosako, Shuhei Morita, Takashi Sonoki, Shinobu Tamura. “ABL inhibitor GNF-2 exerts anti-myeloma effects by controlling IRE1a/XBP1 axis” 第 47 回日本骨髓腫学会学術集会 2022.5.21 岐阜

Yusuke Yamashita, Takashi Kato, Hideki Kosako, Sadahiro Iwabuchi, Ken Tanaka, Kazutaka Nakashima, Izumi Sasaki, Shinichi Hashimoto, Kouichi Ohshima, Tsuneyasu Kaisho, Takashi Sonoki, Shinobu Tamura. “Hypomorphic mutation of Lig4 gene in mice predisposes to intestinal inflammation driven by Th1 cells” 第 84 回日本血液学会学術集会 2022.10.16 福岡

Hiroki Hosoi, Tadashi Okamura, Kentaro Suzuki, Daiki Kajioka, Motomi Osato, Gen Yamada, Takashi Sonoki: 「Non-coding C λ mRNA controlled by super-enhancer affects MYC and BCL6 expression in B-cell lymphoma」 第 84 回日本血液学会総会 2022.10.14-16 福岡

Akinao Okamoto, Masashi Sanada, Takahiko Yasuda, Seiichi Kato, Kosei Mtue, Hiroki Hosoi, Masahiro Yoshida, Satsuki Murakami, Eisei Kondo, Yasufumi Masaki, Yasuhiro Suzuki, Kana Miyazaki, Tomohiro Kajiguchi, Junji Hiraga, Shingo Kurahashi, Yuichiro Inagaki, Kazutaka Ozeki, Shigeki Saito, Akira Satou, Toshiki Terao, Sachiko Iba, Keiko Hattori, Hideyukio Yamamoto, Naoe Goto, Chisako Iriyama, Akihiro Tomita: 「Liquid biopsy for suspicious lymphoma patients with fever of unknown origin: LILY4 study」 第 84 回日本血液学会総会 2022.10.14-16

細井裕樹、太根美聡、小浴秀樹、榊絢朱、和田嘉允、中山宜昭、弘井孝幸、堀善和、山下友佑、蒸野寿紀、村田祥吾、園木孝志: 「慢性 GVHD 増悪後の EBV/CMV 再活性化に伴い発症した移植後ギランバレー症候群の一例」 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2023.2.10-12 名古屋

蒸野寿紀、西川彰則、園木孝志、上野雅巳: 「D to P with D 診療における診療報酬制度の課題と問題点」、第 26 回日本遠隔医療学会学術大会 2022.10.28-29 埼玉

蒸野寿紀、西川彰則、上田かやこ、高木良、堀善和、細井裕樹、村田祥吾、上野雅巳、園木孝志、日野雅之: 「遠隔 LTFU 外来ニーズ調査全国アンケート結果報告」、第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2023.2.10-12 名古屋

井上智博、紺野剛史、西川彰則 「ミリ波センサを用いたプライバシー保護を目的とした非接触型転倒検知技術の研究」 第 26 回日本医療情報学会春季学術大会シンポジウム 2022 in せとうち 2022.6.30-7.2 岡山

西川彰則、榊絢朱、柳野祐一、山下友佑、細井裕樹、蒸野寿紀、村田祥吾、田伏弘行、園木孝志 「県内連携共有カルテシステムを用いた非血液内科医による在宅輸血等のサポートの取り組み」 第 84 回日本血液学会学術集会 2022.10.14-16 福岡

西川 彰則「血液がんの長期闘病と在宅・地域医療」第 84 回日本血液学会学術集会 公開シンポジウム
2022.10.16 福岡

西川 彰則, 楠本 嘉幹, 都甲 和宏, 勝見 英樹, 道本 浩司, 入江 真行「PHR 機能追加による医療情報連携システムの課題解決の取り組み」第 42 回医療情報学連合大会 2022.11.17-20 北海道

西川 彰則, 園田 将之, 永橋 佑樹, 熊本 淳次「スマートグラス型電子カルテは医療現場で有効なデバイスとなりうるか?」第 42 回医療情報学連合大会 2022.11.17-20 北海道

西川 彰則「AI を利用した医療安全向上のアプローチ」第 42 回医療情報学連合大会 2022.11.17-20 北海道

3) 地方学会

松本藍、榊絢朱、小浴秀樹、細井裕樹、田中颯、岩元竜太、村田祥吾、蒸野寿紀、大島孝一、園木孝志：
「関節リウマチに対する MTX 治療中に発症した中枢神経病変を有するリンパ腫様肉芽腫症の 1 例」第 237 回
日本内科学会近畿地方会 2022.9.10 大阪

太根美聡、細井裕樹、小浴秀樹、井邊公章、堀善和、山下友佑、村田祥吾、蒸野寿紀、西川彰則、園木孝志：
「SARS-CoV2 ワクチン接種後に発症し、自然軽快傾向を示した後天性血友病 A の一例」第 117 回近畿血液学地方会 2022.11.26 兵庫

岡村雅、細井裕樹、箕浦直人、村田祥吾、蒸野寿紀、園木孝志：「悪性リンパ腫における化学療法開始日の目視と自動血球分析装置での好中球割合の比較」第 50 回和歌山悪性腫瘍研究会 (WAMT) 2022.12.24 和歌山

岡部友香、堀善和、山下友佑、細井裕樹、村田祥吾、蒸野寿紀、園木孝志：「アデノウイルスによる出血性膀胱炎に対し、高気圧酸素療法が有効であった Ph 陽性 ALL の一例」、第 117 回近畿血液学地方会 2022.11.26 兵庫

岡部友香、松山依子、橋本忠幸、蒸野寿紀、園木孝志：「頭部外傷での創部の止血困難を契機に、軽症血友病 B の診断に至った高齢男性の 1 例」、第 238 回日本内科学会近畿地方会 2022.12.10 Web 開催

田畑翔太郎、山下友佑、武田 里美、栩野 祐一、富坂竜矢、中島志保、松浪美佐子、堀善和、村田祥吾、細井裕樹、蒸野寿紀、西川彰則、園木孝志：「輸血後アナフィラキシーを契機に抗 IgA 抗体保有が判明するも、洗浄血液製剤で安全に輸血療法を継続できた 1 例」第 66 回日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会 2022.11.19 和歌山

堀善和、岡部友香、蒸野寿紀、山下友佑、村田祥吾、細井裕樹、西川彰則、園木孝志「後天性血友病 A に対し、エミシズマブを用いた一例」66 回日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会 2022.11.19 和歌山

蒸野寿紀：「当院における遠隔医療・医療情報連携の利活用について（悪性リンパ腫の外来治療管理を含め）」、第 66 回日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会 2022.11.19 和歌山

西川 彰則「血液疾患の在宅診療について関西エリアの取り組み」地域に貢献する新しい血液内科の会 2022.7.24 東京

西川 彰則「AI を用いた在宅輸血患者の見守りシステム」国際モダンホスピタルショウ 2022

西川 彰則「呼吸数測定可能なパルスオキシメーターを利用した在宅輸血の安全な見守り」令和 4 年度兵庫県輸血医療従事者研修会 2022.11.14 兵庫

西川 彰則「青洲リンクを基盤とした PHR の構築」2022 年度 第 19 回 W A M I N A シンポジウム 2023.1.14 和歌山

西川 彰則「在宅輸血の現状と課題～ICT の利用も含めて～」令和 4 年度島根県輸血療法委員会合同会議 2023.2.4 島根

(2) 学術論文

1) 和文原著

西川 彰則「人工知能を用いた在宅輸血患者の危険行動検知システムの開発と実装への期待」月刊新医療 50(2) 40-43 2023 年 2 月

西川 彰則「スマートグラス型電子カルテの概要と医療現場における有効性の可能性」月間新医療 50(4) 104-107 2023 年 4 月

2) 英文原書

Kosako H, Yamashita Y, Morita S, Iwabuchi S, Hashimoto S, Matsuoka TA, Sonoki T, Tamura S. Allosteric Inhibition of c-Abl to Induce Unfolded Protein Response and Cell Death in Multiple Myeloma. *Int J Mol Sci.* 2022 Dec 18;23(24):16162. doi: 10.3390/ijms232416162. PMID: 36555805

Hiroi T, Hosoi H, Kuriyama K, Murata S, Morimoto M, Mushino T, Nishikawa A, Tamura S, Sonoki T. An evaluation based on relative treatment intensity in older patients treated with reduced-dose R-THP-COP therapy for diffuse large B-cell lymphoma: A multicenter retrospective cohort study. *J Geriatr Oncol.* 2023 Jan;14(1):101396. doi: 10.1016/j.jgo.2022.10.011. Epub 2022 Nov 1. PMID: 36328877.

Koh CP, Bahirvani AG, Wang CQ, Yokomizo T, Ng CEL, Du L, Tergaonkar V, Voon DC, Kitamura H, Hosoi H, Sonoki T, Michelle MMH, Tan LJ, Niibori-Nambu A, Zhang Y, Perkins AS, Hossain Z, Tenen DG, Ito Y, Venkatesh B, Osato M. Highly efficient Runx1 enhancer eR1-mediated genetic engineering for fetal, child and adult hematopoietic stem cells. *Gene.* 2023 Jan 30;851:147049. doi: 10.1016/j.gene.2022.147049. Epub 2022 Nov 13. PMID: 36384171.

3) 症例報告

(和文)

該当なし

(英文)

Tane M, Kosako H, Hosoi H, Tabata K, Hiroi T, Osawa K, Iwamoto R, Murata S, Mushino T, Murata SI, Araki SI, Fujii T, Sonoki T. Severe systemic inflammation mimicking TAFRO syndrome following COVID-19. *Int J Hematol.* 2023 Mar 31:1–7. doi: 10.1007/s12185-023-03589-9. Epub ahead of print. PMID: 37000328

Yoshida K, Murata S, Morimoto M, Mushino T, Tanaka K, Yamashita Y, Hosoi H, Nishikawa A, Tamura S, Hatakeyama K, Matsumoto M, Sonoki T. Sudden Cardiac Death in a Patient with Thrombotic Thrombocytopenic Purpura: A Case Report. *Hematol Rep.* 2022 Jun 2;14(2):203-209. doi: 10.3390/hematolrep14020027. PMID: 35735738

Kosako H, Yamashita Y, Tanaka K, Mishima H, Iwamoto R, Kinoshita A, Murata SI, Ohshima K, Yoshiura KI, Sonoki T, Tamura S. Intestinal Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphoma Transforming into Diffuse Large B-Cell Lymphoma in a Young Adult Patient with Neurofibromatosis Type 1: A Case Report. *Medicina (Kaunas).* 2022 Dec 12;58(12):1830. doi: 10.3390/medicina58121830. PMID: 36557032

Hosoi H, Tane M, Kosako H, Ibe M, Takeyama M, Murata S, Mushino T, Sonoki T. Acute-type acquired hemophilia A after COVID-19 mRNA vaccine administration: A new disease entity? *J Autoimmun.* 2022 Dec;133:102915. doi: 10.1016/j.jaut.2022.102915. Epub 2022 Sep 20. PMID: 36155279

Hosoi H, Akagi Y, Mushino T, Takeyama M, Minoura N, Hiroi T, Furuya Y, Morimoto M, Murata S, Tamura S, Sonoki T. Use of thromboelastography before the administration of hemostatic agents to safely taper recombinant activated factor VII in acquired hemophilia A: a report of three cases. *Thromb J*. 2022 May 16;20(1):28. doi: 10.1186/s12959-022-00387-x. PMID: 35578257

Hosoi H, Tanaka K, Sakaki A, Kosako H, Iwamoto R, Matsumoto A, Arakawa F, Yamoto T, Murata S, Mushino T, Murata SI, Nakao N, Ohshima K, Sonoki T. Rituximab Monotherapy for Grade 2-3 Lymphomatoid Granulomatosis with Central Nervous System Involvement in a Patient Receiving Methotrexate for Rheumatoid Arthritis. *Intern Med*. 2022 Nov 23. doi: 10.2169/internalmedicine.0636-22. Epub ahead of print. PMID: 36418093.

Yoshihara K, Orihara Y, Hoshiyama T, Tamaki H, Sunayama I, Matsuda I, Nishikawa A, Kumamoto T, Samori M, Utsunomiya N, Min KD, Asakura M, Hirota S, Ishihara M, Higasa S, Yoshihara S. Severe acute heart failure during or following cytokine release syndrome after CAR T-cell therapy, *Leuk Res Rep*. 2022 Jul 14;18:100338. PMID: 35898695

(レター)

Sakaki A, Hosoi H, Kosako H, Furuya Y, Iwamoto R, Hiroi T, Murata S, Mushino T, Murata SI, Sonoki T. Successful combination treatment with rituximab, steroid pulse therapy, plasma exchange and romiplostim for very severe TAFRO syndrome. *Leuk Lymphoma*. 2022 Oct;63(10):2499-2502. doi: 10.1080/10428194.2022.2074992. Epub 2022 May 13. PMID: 35561254

Matsuyama Y, Hosoi H, Horitani R, Kawamoto S, Hashimoto T, Kimura M, Nakai H, Mushino T, Sonoki T. Management of warm autoimmune hemolytic anemia related to band 3-positive colon carcinoma. *Ann Hematol*. 2022 Jun;101(6):1343-1344. doi: 10.1007/s00277-021-04714-6. Epub 2021 Nov 5. PMID: 34739579.

Hosoi H, Matsuyama Y, Murata S, Mushino T, Sonoki T. Prolonged Epstein-Barr virus reactivation coincident with chronic graft-versus-host disease after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Leuk Lymphoma*. 2022 Apr;63(4):1009-1012. doi: 10.1080/10428194.2021.2005047. Epub 2021 Nov 16. PMID: 34784844.

Okamura T, Hosoi H, Matsufusa T, Akagi Y, Iwamoto R, Kosako H, Murata S, Mushino T, Murata SI, Sonoki T. Tirabrutinib maintenance therapy for a patient with high-dose methotrexate-ineligible primary central nervous system lymphoma. *Ann Hematol*. 2022 Jun;101(6):1379-1381. doi: 10.1007/s00277-021-04744-0. Epub 2022 Jan 27. PMID: 35083523.

(3) 著書（単行本、シリーズもの含む）

岡部友香, 橋本忠幸「教える側になる <特集>研修医の学び方 限りある時間と機会をうまく活かすためのノウハウ」レジデントノート 2023 年 2 月号(羊土社)、p2807、2023

小浴秀樹、堀善和、山下友佑、蒸野寿紀、田村志宣：「ホジキンリンパ腫のハイリスクと治療戦略 (特集 造血器腫瘍におけるハイリスクと治療戦略を考える)」血液内科. 84(6): 801-807, 2022

堀善和、田村志宣：「新リンパ腫学 ー基礎・臨床の最新動向ー B 細胞リンパ腫, 分類不能型, びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫と古典的ホジキンリンパ腫の中間型」日本臨牀、81 巻増刊号 3 (通巻 1231 号) p.265-269、2023

蒸野寿紀、田村志宣：「【血液疾患のすべて】症候 リンパ節腫大 (解説)、日本医師会雑誌、151 巻特別 1、S68-69、2022

(4) 受賞等

田中颯、田畑翔太郎：令和 4 年度和歌山県立医科大学学術論文奨励賞 受賞

(5) 研究費、助成金

堀善和：令和 4 年度科学研究費助成事業、研究活動スタート支援「リッキドバイオプシーを用いた濾胞性リンパ腫病勢進展の病態解明」

山下友佑：令和 2 年度科学研究費助成事業、若手研究「CCDC22 変異がもたらす免疫応答の変化と EBV-HLH 発症・重症化との関連」

山下友佑：令和 4 年度科学研究費助成事業、若手研究「ABL-IRE1 α 経路に着目した多発性骨髄腫の UPR 制御機構解明と新規治療薬開発」

細井裕樹：令和 4 年度 科学研究費助成事業、若手研究「microRNA とスーパーエンハンサーに着目した悪性リンパ腫の PVT1 の役割解明」

細井裕樹、園木孝志、他：令和 4 年度 AMED 分担研究「急性骨髄性白血病に対する治験用がんペプチドワクチン「DSP-7888」の Phase2 医師主導治験」

蒸野寿紀：令和元年度科学研究費助成事業、若手研究「移植後後期腹水症の発症機序の解明および新規診断バイオマーカー開発」

西川彰則 厚生労働省 令和 4 年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業 (分担)

5 診療実績

(1)	入院	患者総 (のべ) 数 (一時退院後を含む)	494 名
	退院	患者総 (のべ) 数 (一時退院を含む)	512 名
(2)	外来	患者総 (のべ) 数	9998 名
		新規患者数 (病院集計)	247 名

入院患者疾病別分類 (入院のみ, 重複あり, 疑い症例を含む)

		のべ入院数	新規入院数
1)	白血病		
	急性骨髄性	57	13
	M1	5	0
	M2	12	5
	M3	43	1
	M4	3	0
	M5	10	0
	M7	2	1
	AML-MRC	8	4
	t-AML	1	0
	NPM1 変異を有する AML	2	0
	RUNX1 遺伝子を伴う AML	2	0
	急性リンパ性(ALL)	33	3
	慢性リンパ性(CLL)	2	0
	慢性骨髄性白血病(CML)	5	2
2)	骨髄異形成症候群(MDS)	27	6
3)	多発性骨髄腫(MM)	48	10
4)	リンパ性腫瘍		
	DLBCL	111	39
	FL	51	16
	HL	3	0
	PCNSL	7	0
	ATLL	14	1
	AITL	6	1
	MCL	4	2
	MALT	2	2
	HGBCL	2	1
	BCL	2	2
	PTCL	3	1
	IVLBCL	1	1
	MTX 関連 DLBCL	2	0
	古典的ホジキンリンパ腫	2	1
	BPDCN	4	0
	DIC	1	1
	cHL	5	2

	悪性リンパ腫	4	2
	SLL	1	0
5)	血球減少症(造血不全含む)	1	1
	再生不良性貧血(AA)	2	1
	巨赤芽球性貧血	1	1
	汎血球減少症	1	1
	ITP	8	5
7)	その他		
	結節性硬化型古典的ホジキンリンパ腫	1	0
	好酸球増多症(HPS)	1	0
	AL アミロイドーシス	2	1
	後天性赤芽球	1	1
	回盲部びまん性大細胞	1	1
	寒冷凝集症	1	1
	急性腎障害	1	1
	ENKL	6	2
	TAFRO 症候群	2	2
	ET	3	2
	後天性血友病 A	2	2
	ALK+ALCL	1	0
	血小板減少症	1	1
	血小板低下	1	1
(3)	ドナー	8	5
	末梢血管	6	
	骨髄	2	
(4)	死亡	31	
(5)	剖検(率)	8	

外来新規患者の疾患名と患者数(疑い症例を含む) 2022年4月～2023年3月

1)	白血病	3
	二次性白血病	1
	M1	1
	M2	2
	APL	3
	M5b	1
	AML-MRC	2
	AML 分類不明	11
	急性リンパ性白血病(ALL)	1
	Ph+ALL	1
	Ph-ALL	1
	慢性骨髄性白血病(CML)	7
	慢性リンパ性白血病(CLL)	3
	B-CLL	1
2)	骨髄異形成症候群 (MDS)	42

	治療関連 MDS	1
3)	多発性骨髄腫 (MM)	18
4)	リンパ腫	
	リンパ節腫脹	3
	DLBCL	52
	FL	15
	十二指腸の F L	2
	HL(ホジキンリンパ腫)	2
	非ホジキンリンパ腫	2
	古典的ホジキンリンパ腫	1
	B 細胞性リンパ腫	2
	B 細胞非ホジキンリンパ腫	1
	B 細胞性リンパ芽球性リンパ腫	1
	甲状腺リンパ腫	1
	脾悪性リンパ腫疑い	1
	肺 MALT リンパ腫	1
	眼付属器 MALT リンパ腫	1
	皮膚原発性未分化大細胞リンパ腫	2
	MTX 関連リンパ腫	1
	全身リンパ節腫大	1
	リンパ節増多	1
	鼠径リンパ節のがん移転疑い	1
	リンパ増殖性疾患	1
	ATLL 疑い	1
	MALT	5
	胃リンパ腫	1
	多発リンパ節腫脹	2
	炎症性のリンパ節腫脹	1
	左腋窩 LN 腫脹	1
	多発 LN 腫脹	1
	頸部リンパ軽度腫脹	1
	右鎖骨上窩リンパ節腫脹	1
	右頸部腫脹	1
	多発リンパ腫大	2
	腹腔内リンパ節腫大	2
	縦隔リンパ節腫大	2
	左頸部リンパ節腫大	4
	頸部リンパ節腫大	1
	両側頸部リンパ節腫大	1
	右鼠径リンパ節腫大	1
	腹部リンパ節腫大	1
	右腋窩リンパ節腫大	1
	悪性リンパ腫	12
	悪性リンパ腫疑い	1

	右精巣悪性リンパ腫	1
	低悪性度リンパ腫	2
	PTCL(末梢性 T 細胞リンパ腫)	1
	ALCL	1
	AITL	2
5)	血小板減少症	19
	ITP	15
	二系統の血小板減少	1
	特発性血小板減少	1
	慢性経過の血小板減少	1
	血小板増多症	2
	偽性血小板減少	1
	本能性血小板減少	1
	一過性血減少	1
	好中球減少	6
	ET(本能性血小板血症)	6
6)	貧血	
	鉄欠乏性貧血	12
	正球性貧血	3
	大球性貧血	13
	溶血性貧血	3
	巨赤芽球性貧血	4
	AA(再生不良性貧血)	4
	腎性貧血	2
	自己免疫性溶血性貧血	1
	小球性低色素性貧血	1
7)	多血症	5
	二次性多血症	1
	真性多血症	3
	多発血栓症	1
	好酸球増多症(HPS)	11
8)	その他	
	HIV 感染症	5
	汎血球減少症	18
	白血球減少症	9
	白血球異常	1
	白血球増加症	3
	白血球増多症	3
	白血球高値	4
	肺炎に伴う白血球増多症	1
	低蛋白血症	1
	赤血球増多症	1
	ENKL	1
	PNH	1

MGUS(単クローン性免疫マクログロブリン血症)	10
原発性骨髄線維症	3
胃 GIST	1
DIC	1
プロテイン S 欠損症	1
右側顎関節症	1
伝染性単核球症	3
マクロ MDH 血症	1
深部静脈血栓症	1
二次性の γ グロブリン血症	1
アミロイドーシス	2
AL アミロイドーシス	1
消化管アミロイドーシス	1
右胸鎖乳突筋肉腫	1
血液不明	1
血液型判定保留	1
骨髄浸潤	1
腫瘍浸潤	1
咽上頭腫瘍	1
敗血性症ショック	1
末梢血骨髄球	1
sIL-2R 高値	1
下部消化管出血	1
腹部大動脈瘤破裂	1
下顎の腫瘍性病変	1
サラセミア	2
肺病変増大	1
赤芽球ろう	2
後天性赤芽球ろう	1
LD 高値	1
WBC 高値	3
腸間膜多発腫瘍	1
PT/APTT 両延長	1
糖尿病	1
胃腸炎	1
乳癌の再発	1
卵巣癌	1
胃癌	1
子宮体癌	1
成人スチル病	1
木村病	1
赤血球増多症	3
慢性腎臓病	1
芽球性形質性細胞様樹状細胞腫	1

骨髄増殖性腫瘍	1
左耳下腺腫瘍	1
高クロン性高 γ グロブリン血症	1
低 γ グロブリン血症	1
菊池病	2
球状赤血症	1
後天性血友病 A	2
ノカルジア感染症	1
高CK血症	1
腹部脊柱管狭窄症	1
慢性NK細胞増加症	1
ヘモグロビン異常症	1
せん妄	1
ネフローゼ症候群	2
セザリー症候群	2
D. D. S 症候群	1
遺伝性球状赤血球症	1
血球貧食症候群	1
微小変化型ネフローゼ症候群	1
血栓性微小管症	1
骨髄癌腫症	1
TAFRO 症候群	1

6 リーダーレポート

2022年度を振り返って

病院教授(医療情報部) 西川彰則

今年度もコロナ禍による診療の負担が続く1年であり、現場の先生方、また特に病棟医長の村田先生は多大な苦労があったと存じます。私においては、外来診療が中心でなかなか血液内科診療に従事する割合がぐっと下がってしまい、医局の皆様に変にお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、私自身においては、今年度は、電子カルテの更新年でありほぼこの業務が中心の1年でした。診療現場の要望や不具合の対応などに追われましたが、皆様の協力もあり、無事年末に電子カルテを更新することができました。

世の中は情報化の時代から、それら情報を用いたビッグデータの利活用、AI、IoTの時代へと移り、医療分野にも大きな変革の波が押し寄せています。2022年度は、これら変革の波に先駆けていくつかの種をまくことができました。大阪公立大学との共同研究において、移植患者さんの退院後のフォローのためのアプリの実証研究では、再入院直前の1週間の脈拍数の変化が優位にみられるといったことも粗解析ではありますが認められています。また大阪公立大学、愛媛大学、和歌山県立医科大学の移植患者の診療データを新しい医療情報交換の標準規格であるFHIR形式で統合する研究も進んでいます。将来的には、この仕組みを広げ、TRUMPデータベースへの統合を目指しています。また、先の日本造血・免疫細胞療法学会では、総会長の赤塚美樹先生よりインタラクティブなPros-ConsでのAIを用いたクラスター解析を仰せつかり、医療分野への様々な形のAIの需要が増えていることを実感しました。また、同学会では広報委員を拝命し、現在学会ホームページへのチャットボットの導入を進めています。

個人の研究としては、医療情報連携、PHR、遠隔医療、在宅医療をテーマにいくつかの進捗が得られました。以前より進めている青洲リンクに昨年夏からPHR (personal health record) 機能を追加し、患者さん自身が自分のスマートフォンで診療データを管理できる仕組みを作り、少しずつではありますが県内の患者さんの医療の質向上を目指す取り組みが進められています。また遠隔医療に関しては、蒸野先生を中心に遠隔LTFUを進めています。お陰様で、日本遠隔医療学会に血液疾患を対象とした分科会も設立することができました。在宅診療については、在宅輸血中の患者モニターのための研究を引き続き継続しています。これらの新しい種は、どんな花を咲かせてくれるかはまだまだ未知数ですが、常に新たなチャレンジを進めていきたいと考えています。

2023年度からは輸血部から完全に医療情報部へポストが移動することになりましたが、臨床現場でのアイデアやニーズが医療を前にすすめるためのシーズになりますので、引き続き血液内科の一員としてご指導、ご協力をお願い申し上げます。

戻りつつある日常

-兼務の2年目-

講師(医局長・病棟医長) 村田祥吾

4月1日、医大からの帰宅途中、紀三井寺競技場へ続く遊歩道。満開の桜の下で家族連れやカップル、友人同士、十数人の年配の団体が弁当やアルコールを並べて、楽しそうにお花見に興じていた。ようやく以前の日常が戻ってきたことを実感した一時であった。春は始まりの季節でもあり、別れの季節でもある。我が家もこの日、高校進学のために長男を妻の実家に預けた。思えば、これまでの人生で自分が家族から送り出されることは何度かあったが、送り出すのは初めての経験であった。「親思う心にまさる親心」、親になって15年以上になるが、今年は特に身に染みる気がした。

今年度は引き続き医局長と病棟医長を兼務した。自分が適任であるとは決して思わないし、仕事が不十分であった点多々あったと思う。それでも、どうにか入院患者の調整、主治医の割り当て、他院とのやり取り、学生指導、医局運営、人事を行ってきたつもりである。ベンサムの「最大多数の最大幸福」という言葉があるが、実践することの難しさを日々感じている。業績として残るわけではなく、評価されることも少ない仕事ではあるが、自分なりに責任を持って取り組んできたつもりではある。また、3年目になるが、今年度もコロナに悩まされた一年であった。PCUがコロナ病床となり、単純に血液内科の病床が減っただけでなく、個室が使用できない不自由さもあった。私自身も11月に家族共々コロナに感染してしまった。年が明けて、5西病棟でもクラスターが発生し、多くの患者さんが入院期間の延長、治療の延期・中止という多大な影響を受けることとなった。どれだけ注意しても起こり得ることではあるが、大変心が痛む思いをした。まもなく、5類感染症への引き下げ、入院患者のPCR検査義務化の終了となるが、どのように影響するのか一抹の不安は残る。

今年は松本藍先生が血液内科への入局を決めてくれた。8年連続で入局者を確保できている。ジェンダーレスの時代であり、言及すべきことではないのかもしれないが、女性医師の割合が年々増えていることも血液内科の大きな変化の一つである。2023年度は紀南病院に3名、海南医療センター、那賀病院に2名ずつ、日赤和歌山医療センターにも1名の医師を派遣する。和歌山県で初となるCAR-T療法もまもなく始動する。和歌山県の血液内科診療が入局時には想像できなかった程に充実してきたことは大変うれしいことであるが、それでもまだまだ他府県に比べて十分とは言えないのが現状である。若手の成長とともに、今後、自分が担っていくべき役割も変わっていくのを実感している。

冒頭の長男は私が研修医1年目に生まれた子である。そのため、息子の成長と自分の医師としての成長を重ねてしまうのだが、果たして50cm, 3600gが177cm, 78kgになった程に自分は成長しているのだろうか…。最年少記録には制限があるが、最年長記録は頑張ればいつからでも挑戦できる。当たり前なことではあるが、最近、新聞のコラムで目にした言葉である。さあ、今から何の最年長記録を目指そうか。

2022年4月に堀善和先生が国立がん研究センターより、岡部友香先生が橋本市民病院より戻られ、1年間同じチームで病棟診療を行いました。堀先生は国立がん研究センターで多くのことを学ばれ、特に臨床研究の遂行、悪性リンパ腫の診断、CAR-T細胞療法を含む診療に関しては、教えて頂くことばかりでした。特にJCOG試験については、2022年度は3つの試験が行われていましたが、当科からは合計11例を登録することができました。これも堀先生のエネルギーが原動力となっていると思います。今後も登録可能な試験が増加することから、適切な臨床試験実施体制の整備、対象患者の選択、プロトコールに従った治療・評価に尽力していきたいと思っています。岡部先生は堀先生から日々叱咤激励を受けながらも、いつも笑顔を絶やさず、成長著しい1年であったと思います。12月の日本内科学会近畿地方会では高齢軽症血友病Bの発表で若手奨励賞後期研修医の部で最優秀賞を受賞されました。初期研修医は4月から6月まで南昌吾先生が血液内科をローテーションしてくれましたが、患者さんと良い信頼関係を築けていたことが印象的でした。岡部先生・堀先生の指導の成果であり、お二人には感謝しています。2023年7月から岡部先生は紀南病院へ異動されますが、さらに研鑽を積んで頂きたいと思っています。

病棟診療以外の点では、田畑先生にはポリクリセミナーの骨髄生検シミュレーションを引き続き手伝ってもらいました。学生の記憶に残るよう、いつも阿吽の呼吸でセミナーを実施しています。また、松山先生には毎週月曜日に外来を手伝って頂きました。今後は総合内科を中心とした勉強を希望され、3月までで一旦外来は終了となりましたが、新たな研鑽を積み、後輩の先生方の指導を行って頂くことを期待しています。紀南病院には引き続き谷河先生が毎週金曜日に来てくれました。午前中は内視鏡検査、午後は新患・再診外来を担当して頂きました。新患の精査の方針のみならず、外来での経過観察の方針など、多くのことを自分で決められるようになっており、信頼して任せられるように成長されたと思います。

また、2022年度は学生教育に時間を費やした1年間でした。昨年4月に急遽、文部科学省のポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業に応募することとなりました。高知大学を代表校として、本学・三重大学が連携校となり「黒潮医療人養成プロジェクト」と題し申請を行い、11拠点のうちの1つに採択されました。申請の過程で学内の様々な先生方にご指導頂き、高知大学・三重大学の先生方とも協議を重ねる中で、カリキュラムや学生教育について学び、大変成長させて頂いたと感じています。2023年度から教育プログラムがスタートしますが、年間約6,000万円の大きな事業であり、地域卒学生の教育に資するものとなるよう、身が引き締まる思いです。血液内科への貢献度は低くなってしまい、これでよいのかという思いもありましたが、12月には特別優良教員理事長表彰を受賞することができ、大変励みになりました。

その他、遠隔LTFU外来は大阪公立大学日野雅之教授のご支援のもと、国内のニーズを把握するため、全国アンケートを行いました。この内容は第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会で発表し、現在論文化しているところです。また、赤血球製剤・自己血使用ガイドライン作成は、一次スクリーニングと文献入手まで進みました。2023年度は二次スクリーニングへと進んでいきますので、微力ながら貢献していきたいと考えています。後厄の1年間、健康にも気をつけたいと思います。

2022年度を振り返って

講師(外来医長) 細井裕樹

2022年度も新型コロナが診療へ影響しました。オミクロン株により重症化の危険性はやや低下したものの、感染力が強くて多くの感染者が出ました。和歌山県内も人口の割に一時感染者数が多くなり、化学療法中や同種移植後の免疫力が低下した外来患者さんもコロナ陽性となることがありました。そのため今年度は血液疾患患者さんでコロナ陽性で入院管理を要することが生じました。加えて、感染力の強さから医局員やその家族でも陽性となることがあり、私自身もしばらくお休みを頂きました。来年度は新型コロナも5類感染症となることで、診療上の注意点や工夫も変わってくる可能性があり、新しい情報を取り入れながらその時々で適切な対応を考えていく必要があると思っています。

今年度は私的な事情で業務を制限しました。連日時間休を頂いたり、平日の時間外対応をほとんどできなかったり、外病棟の当直を変わってもらうことが多かったりで、多くの医局員の先生方、秘書さんに御協力を頂きました。医局員が増えて、家庭の事情等で勤務に制限がかかった際も協力体制ができていると感じました。病棟業務も以前は一人主治医でしたが現在はチーム制になっており、また外来担当医も増えたことで必要に応じて代診での対応がしやすくなりました。今後も診療の協力体制が強化されていくと思います。

病棟業務では今年度は太根先生、小浴先生と診療にあたりました。2人とも大変勉強熱心で、私も刺激を受けながら診療にあたりました。太根先生も経験した貴重な症例を症例報告としてまとめてくれました。患者さんの診療で生じた疑問点を症例報告という形でもまとめていくのは大切なことだと思っています。

今年度も引き続き外来医長を担当しました。外来移転により診察室も増加し、診療担当医の増加にも対応できていると思います。外来の診療体制や移植後フォローアップ外来体制も軌道にのっており、改善点への対応は続けておりますが、今年度は大きな体制変更は必要になりませんでした。外来クラークさんが多くの事務業務を請け負ってくれていること、また外来看護師さんが日々の外来業務のマネジメントをしてくれていることが安定した外来進行につながっています。大変感謝しています。

教育面では本年度は対面での授業を再開できました。WebにはWebの良さもあると思いますが、学生の反応を見ながら授業を進められるのが対面講義の良さだと改めて感じさせられました。今年度も選択ポリクリの血球形態セミナーを担当しましたが、血液疾患に対する学生の理解度があがってきていると感じています。

研究に関しては、悪性リンパ腫発症におけるPVTIの役割に焦点をあてて行っておりますが、なかなか思うように進んでいません。加えて、今年度からは堀先生とliquid biopsyの研究に取り組んでいます。来年度には何らかのデータをまとめられるようにしたいです。

2022 年度も COVID-19 の影響が大きい 1 年でした。COVID-19 は私自身も罹患し、たちの悪い感染症だということに身に染みて実感しましたが、COVID-19 の影響で色々な技術が進歩し、プラスの面もありました。私自身が特に恩恵を受けているのは、世の中に定着してきたリモート会議技術で、出張してまでは参加することができない学会や勉強会などへの参加が可能になったり、遠く離れた共同研究者の先生方とも手軽に会議ができたりと、便利な世の中になったと実感しています。以下、この 1 年の振り返りを書かせていただきます。

私自身としては、助教を拝命して 2 年目となり、大学教員の仕事も徐々に増えてきました。今年度は医学部の学生講義や、OSCE の評価者などの業務に加え、初めて大学入学共通テストと本学医学部入学試験の試験監督も務めさせて頂きました。真剣に試験に取り組む高校生の姿は、自分自身の初心を思い出させてくれる良い機会にもなりました。また、今年度は日本造血・免疫細胞療法学会の認定医を取得しました。同種造血幹細胞移植は、当科の診療の重要な位置づけであり、学会認定医として引き続き移植医療に貢献していきたいと思えます。

臨床については、病棟 D チームのリーダーとして、田畑先生、武田先生と一緒に診療にあたりました。私自身は研究や外来業務の割合が大きかったですが、病棟業務は 2 人のおかげで、同種移植を含め高度な診療を提供できたと思えます。特に、今年度は治験や臨床試験の症例が大幅に増えた印象を受けます。エビデンスを遵守する診療は重要ですが、エビデンスを発信するのはもっと重要だと思いますので、治験や臨床試験もしっかりとこなしていけたらと思えます。また、毎週水曜日は今年度も公立那賀病院の外来を手伝わせていただきましたが、常勤の古家先生、赤木先生の活躍により、公立那賀病院の血液診療も充実してきていると感じます。2022 年度に無菌室も 2 床完成し、対応できるレジメンも増えました。2023 年度は日赤和歌山医療センター血液内科の規模縮小が決まっていますし、和歌山医大血液内科の病床数も限られていますので、今後、公立那賀病院の役割もますます大きくなっていくと思えます。微力ながら、引き続きサポートできればと思えます。

研究については、ER ストレス機構に着目した多発性骨髄腫の病態解明、新規治療薬の開発についての研究と Lig4 変異マウスを用いた原発性免疫不全症に随伴する自己炎症病態の研究が主な研究テーマになっています。前者の骨髄腫の研究では、今年度は大学院生の小浴先生と研究を前進させることができました。原著論文を 1 本報告でき、小浴先生の学位論文となりそうです。小浴先生の熱心な研究姿勢には感心させられますし、私自身にも良い刺激になっています。後者の Lig4 変異マウスの研究は、救急科へ異動された田村先生、本学生体調節機構研究部をはじめ、多くの共同研究先の先生方の支援のおかげで、大きく発展してきました。2023 年 5 月にカナダのトロントで開催される国際全身性自己炎症性疾患学会で演題が採択され、私自身にとって初めての国際学会での発表が決まりました。どこまでの仕事になるか分かりませんが、良い仕事にできたらと思っています。また、今年度は、田畑先生と一緒に生化学教室との共同研究も始めました。今後も、研究の幅を広げ、学会発表、論文発表として研究結果を報告し、世の中に少しでも貢献できたらと思えます。

2022 年度を振り返って。

助教 堀善和

2022 年度は、2 年半ぶりに和歌山県に帰ってきた年でした。皆様には多大なご迷惑をおかけしたと思っています。自分なりに 2022 年度を振り返ってみたいと思います。

臨床：岡部先生、蒸野先生の間でチームのマネージメントを頑張っています。今まで、紀南病院、国立がん研究センターと何れも最前線で臨床を行っていましたがマネージメントを行うことの難しさを感じています。臨床の目標としては、CPA を用いた HLA 半合致移植を行うことを目標としていました。2022 年度中に行えたことは個人的には移植の選択肢が増え、嬉しく思っています。一方で、働き方改革が十分に進められなかったことは来年度以降の目標と思っています。特に、**チームで一番若い先生が土日も含めてずっと出てくることで成り立つ臨床システム**を変えられなかったのはかなり強い反省点です。私自身の臨床トレーニングも、たくさんの患者さんを毎日診療することで行っていた側面もあるのですが**今は時代が変わっています**。来年度は特に休日の対応を含めてもう少し調整することを目標としたいと思います。

研究：今までは、研究らしい研究を行ったことはなかったのですが、4 月に園木教授のご指導のもと初めて科研費の申請を行いました。運良く、科研費を獲得でき少しずつ研究も進めています。細井先生には研究面で多大なサポートを頂いています。本当にありがとうございます。今行っている仕事が少しでも形になる様に働いて行きたいと思っています。また、一つ研究を始めると取得した研究方法を用いてさらなる研究課題が見つかるのが興味深く思っています。まだ研究は開始して日が浅いですが、もう少し頑張ってみようと思います。

2023 年度は医者になって 10 年目の年です。以前は、様々なルールは上から降ってきて従うものと考えていました。そのため、時に遵守する事が困難と思うことも有りました。最近、ルールは人間が作っているものでそれは変えられると信じています。一方で、ルールを変えるのには適切な手段を取っていく必要があります、また変えるまではルールを守る必要がある事を強く意識しています。

適切な手段を用いながら、一步一步少しずつ、進歩していける様に 2023 年度も頑張っていきたいと思いません。

Without haste, but without rest “Goethe”

定年退職のご挨拶

輸血部 松浪美佐子

私事で恐縮ですが、3月31日をもちまして定年退職いたします。この場をお借りして皆様にお礼を申し上げます。

振り返ってみると、39年間の勤務経験の中で、輸血部所属期間が約24年間と一番長いものになりました。今の当たり前が、昔の当たり前じゃないというのはよくある話ですが、輸血業務に関してもそうです。緊急時には今は救命優先でO型赤血球、AB型FFPの輸血が速やかに行われますが、以前はシステム構築・ルール作りの不足や、臨床側・検査側双方の経験・知識不足などがあり、異型輸血はなかなか行われませんでした。今は明確なルールを作り、臨床側とのコミュニケーションもとれ、輸血部スタッフも的確に判断し、患者さんに少しでも早く安全な輸血を提供できるようになりました。

検査技師として働くようになってから、そして前任者から輸血部責任者を引き継いだときからは特に「ミスがないように」ということを一番大切にしてやってきました。人間なので間違えたり、忘れたりすることはありますが、それを周りのスタッフでカバーし、チェックしあって、輸血が安全に行われるように心がけて、毎日仕事してきました。それでもやはり、何年かに1度、思いがけない間違いや、チェックをすり抜けてミスが起こってしまうこともありました。また、血液製剤の適正使用や輸血に伴う適正使用加算の取得など、目標に掲げてもなかなか叶わないこともありました。その中で、園木教授はじめ血液内科の多くの先生方に輸血部に関わって頂き、私たちにはない発信力や判断力で輸血業務を助けて頂きました。思い返せば、輸血血液疾患治療部としてはじまった時から、大田教授、中熊教授、園木教授といつも温かく優しい眼差しで指導して下さる先生に恵まれて仕事を続けることができました。また、輸血部次長の役職が出来る前から輸血部に関わって下さった小島先生、綿貫先生、輸血部次長となって輸血部業務・輸血療法委員会業務を指導して下さった花岡先生、西川先生、細井先生、本当にありがとうございました。

ひとまず、退職後の予定はまだ何も決まっていません。家が大阪市内のためよく遅延する阪和線・きのくに線で毎日片道約2時間の電車通勤を続けてきました。しばらくはのんびりして固まった体をほぐしていきたいなと思っています。

最後になりますが、血液内科のご発展、そして皆さまの益々の健康を心よりお祈り申し上げます。そして、今後も変わらぬ輸血部へのご支援、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

向看護師長より引継ぎ、今年度より 5 階西病棟に配属されました。血液疾患のある患者の看護については、過去を遡ってもあまり経験がなくとても不安な状況で 4 月 1 日を迎えた記憶があります。同時に、易感染状態の患者が多く、新型コロナウイルスが猛威を振るう状況下で、患者の安全をどう守っていけばよいのかということについての不安がとても大きかったです。

2022 年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響をうけ、第 7 波・第 8 波では、医療者も終日 N95 マスクやゴーグルの着用を余儀なくされる状況で、ストレスfulな環境下となりました。パソコンのトップ画面には感染制御部から正しい PPE の着用とゴージョの適切なタイミングでの使用が啓発され、食事についても黙食の徹底が指示されました。部署では対策強化の取り組みとして、勤務毎に各自がゴージョの使用量を測定し、手指衛生への意識を高めてきました。その結果、今年度ゴージョの使用量の伸び率が院内全体で一番高く、感染制御部より 1 位の表彰を受けることができました。これら感染予防対策を遵守した行動が、易感染状態の患者への感染拡大を最小限に抑え、病棟運営が滞りなくできたのだと評価しています。

病床も大きく編成しました。多くの患者が化学療法や移植治療を控える中、PCU がコロナ病床での稼働となったため血液内科は 4 床の減少となりました。早期治療と早期退院を迫られ、バランスを取りながらの運営は、先生方にとってもご苦労されたことだと思います。そのような状況でも看護師は、減床をチャンスと捉え、前年度から取り組み始めた口腔ケアに関するアセスメント能力を高め、患者指導に力を注いだこと、受け持ち看護師が患者のニーズを捉えてケアの充実や退院支援ができたことなど看護の質を高められる良い機会となりました。特に造血幹細胞移植患者の口腔粘膜障害が減ったことは、看護の質が向上した結果であり、看護師のやりがいとなっています。今後も看護師がやりがいをもって、5 階西病棟で働いていけるよう支援していきたいと思っています。

7 寄稿文

公立那賀病院 血液内科 古家美昭

公立那賀病院 血液内科 古家と申します。今回初めて年報を書かせていただきます。

今、私たちは激動の時代を生きています。COVID-19、ウクライナ情勢、それらに伴う歴史的物価高。皆疲弊している印象ですが各々の場所で頑張っています。「そんなこともあったなあ…」と言いあえる日が来ればと願っています。

個人的なお話になりますが、偉大な先輩方のお力添えをいただき（特に細井先生にはご迷惑をおかけしました…）、2022年に血液専門医を取得させていただきました。この場を借りて感謝申し上げます。日常診療で行う業務はそう大きく変わりませんが、判断や発言の一つひとつが重くなったような感じがして身が引き締まる思いです。

私は那賀病院に2022年7月に赴任し、赤木先生と二人体制で、週1回外来にて山下先生の貴重なご意見をいただき血液内科業務に従事してきました。2023年4月には赤木先生が日本赤十字社和歌山医療センター（日赤和歌山病院）血液内科へ赴任され存在の大きさを思い知らされました。かわって紀南病院より横矢先生が赴任され2人体制で、週1回山下先生のご意見をいただきながら診療にあたっています。横矢先生は熱心に診療されており、私も見習うべきところがあります。

先ほど激動の時代を生きていると申し上げましたが、我々和歌山県の血液内科医にとっても激動の時代です。2023年3月末に日赤和歌山病院血液内科のスタッフ一斉退職により和歌山医大附属病院血液内科の役割はますます大きくなっており、移植治療を受ける患者以外の血液疾患患者は当院を含めた市中病院へ流れてくると予想され実際に流れてきています。

ますます当院の役割は大きくなり、これからどうなってしまうのかと恐怖で震えております。

皆様に支えていただき今、私は生きています。いつもありがとうございます。

まだまだ若輩者ではありますが今後ともどうぞご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

海南医療センターでの血液診療

海南医療センター 内科 弘井 孝幸

海南医療センターでは昨年度と引き続き、内科として一般内科患者をみながら血液疾患患者の診療にあたっていました。この一年で二度院内クラスターを経験し、一時県内で新規発症 2000 人を超えた COVID-19 感染症も収束に向かい、ようやく内科にも日常診療が戻ってきつつあります。

血液疾患診療について振り返ると、今年一年間では特に大きな変化はありませんでした。病棟では昨年度末に研修を終えた病棟看護師が日本看護協会認定のがん化学療法看護認定看護師となり、より頼もしく、きめ細かなケアを提供できるようになりました。検査部門では、血液を担当してくれている技師の熟練と専門医の常駐にともない、今まで外注していた骨髄像検査が院内で完結するようになりました。もちろんまだまだ未熟であり医大の検査部や先生方のお力を借りながらにはなりますが、血液疾患診療体制が整いつつあるのかなと思います。

私個人としてこの一年を振り返ると、卒後 9 年目となり職場にも年下が増え、すっかり先輩面をするおじさんになりました。また、自分には遠く縁のないものと思っていたが、細井先生からチャンスをいただき、学位取得に向け準備を開始し、無事討議会を終えることができました。討議会に際しては園木先生をはじめ科内の先生方のご協力を賜りました。ありがとうございました。特に大変なご尽力をいただいた細井先生、学位論文データの元となる解析を行いデータを引き継いでくださった栗山先生のお二人には重ねて厚く御礼申し上げます。

最後に、院内クラスター発生時、私や榊先生も感染し休養をいただいた際ご助力をいただいた田畑先生、細井先生、園木先生、またその間に医大でのフォローをしてくださった各先生方に深く感謝を申し上げます。

来年度もよろしく願いいたします。